

## 鹿児島県鹿屋市柳谷集落におけるコミュニティガバナンスに関する一考察について

新潟医療福祉大学 社会福祉学科・青木茂

### 【背景】

近年、地域社会においては隣人などとのコミュニケーションが薄れ、人間関係が希薄となり、孤立死、児童虐待、高齢者虐待、高齢者の所在不明問題などさまざまな問題が発生している。このような中、地域社会を再構築すべく地域コミュニティが全国的に組織され、その役割に大きな期待が寄せられている。本研究は、新潟市から大学連携研究事業「コミュニティ協議会に対する市の支援策についての調査研究事業」として本学が受託し、その研究事業の一環として実施した鹿児島県鹿屋市柳谷集落の調査結果について考察する。

### 【方法】

鹿児島県鹿屋市柳谷集落自治公民館長T氏に対する半構造化面接法による調査（2012年3月30日に実施）

### 【結果】

次の視点により先進的な活動が取り組まれていた。

1. 行政に頼らない自立したコミュニティ運営
  - 1) 土着菌づくりと自然農業の挑戦
  - 2) からいも（さつまいも）栽培から焼酎生産
  - 3) わくわく運動遊園の建設
  - 4) 緊急通報装置の設置、シルバーカーの贈呈
2. 住民の連帯意識の醸成の仕掛け
  - 1) ボーナスの出る集落
  - 2) サンセットウォーキング大会の開催
  - 3) 有線放送の実施と継続
  - 4) おはよう声かけ運動
  - 5) 寺子屋の設置
  - 6) 地域再生は文化向上から
3. 後継者の育成（リーダー像）
  - 1) 重き使命感と実践力
  - 2) 百戦錬磨の根性と万人に通用する判断力（調整役）
  - 3) 笑顔を基本に汗と涙と感動
  - 4) 地域活動の頂点は、小・中学校である
  - 5) パートナー（仲間）とブレイン（頭脳）

### 【考察】

#### 1. リーダーの選出過程

柳谷集落の慣例でこれまで自治公民館長は65歳前後の任期1年の輪番制をとっていたが、平成8年にT氏が異例の55歳の若さで抜擢された。これまでの私利私欲のない

地域活動への参加姿勢から年配者から推薦され満場の拍手でリーダーを託された。地域リーダーという負担感を輪番制で公平に廻す方法では、過疎高齢化の集落を維持できないと時の年配者の判断もあったが、総会で満場一致で推挙される選出過程そのものがT氏のエンパワーメントにつながっていると考えられる。

#### 2. リーダーの要素（T氏語録から）

住民に対して命令形で説明しない。自ら率先して汗を流すこと。役職をタイミングよく後継者に譲る勇気があるか。名誉や物に対して無欲であるか。計画を発表してからは、行動は速い。しかし、発信するまでは色々なことを熟慮する。8、9割が段取り。リーダーは人まねではだめ。それでは感動しない。リーダーに不可欠なのは、感動と感謝で人の心をゆさぶること。他

#### 3. 自治公民館会計に企業会計原則を導入・組織の強化

企業会計原則に則って帳簿を整備し、集落民を数字で理解、納得させられる。組織は、高齢者部・青少年育成部・婦人壮年部・畜産部・文化部・事業部の部制を敷いており、それぞれに予算配分をしている。その予算は収益金である。各部毎に、部長、副部長、会計等の5役を置き、役員経験をさせることで、次世代のリーダーを養成している。

#### 4. 柳谷集落の一連の取り組みによる効果

- 1) 医療費、介護給付費用の減少（鹿屋保健所調べ）
- 2) 集落人口の増加、活性化
- 3) 自主財源の増加（自治会費の負担ゼロ）

### 【結論】

#### 1. コミュニティ活性化の着眼点

- 1) 高齢者の活用（生きがいくくりと役割）
- 2) 青少年の育成（寺子屋、集落の奨学金制度創設）
- 3) 集落の文化向上と若者流出の防止（絵画、陶芸、彫刻などの芸術家を全国公募し迎える）
- 4) 空き家対策（空き家を借用して迎賓館と名付け芸術家の住まい、アトリエに活用）
- 5) 集落人口の増加（地域で子育てが実践できるとし移住者や出身者のUターンで人口が増加している）
- 6) 自治会費を払わなくても済む自治会運営
- 7) 柳谷集落の実践を全国に普及（故郷創世塾の開講）

#### 2. コミュニティガバナンスの理想形は、リーダーの「情熱、責任感、先見性（目測）」により成る。

### 【文献】

豊重哲郎『地域再生 行政に頼らないむらおこし』、あさなてさーな、2011